

～国際支援や国際教育交流の今後の在り方、その意義、成果、  
よりよい実践方法を求めて～

弊団体は、これまでの実践や経験を生かし、それをさらに充実・深化させ、国際支援や国際教育交流の今後の在り方、その意義、成果、よりよい実践方法などを探求する中で得られたものは、あらゆる面で東京の教育“国際感覚を磨き、世界と共に生きる一人ひとり、逞しく生きる人材の育成”に寄与できるものと考えた。

**【研究計画】**

**1年目 今後の研究計画、研究組織の構築**

国際支援・国際教育交流の意義の整理

H28年度国際支援計画の立案、実践

H28年度国際教育交流計画の立案、実践

研究のまとめ、報告会開催

**2年目 研究組織の一部改編**

H29年度国際支援計画の立案、国際支援の継続

H29年度国際教育交流計画の立案、国際教育交流の継続

研究のまとめ

**3年目 研究組織の一部改編**

H30年度国際支援計画の立案、国際支援の継続

H30年度国際教育交流計画の立案、国際教育交流の継続

研究のまとめ

◎今年度は、研究1年目にあたる。同じ考えの元集った各分野で活躍する第一線のメンバーの交流を図ると共に、これから始まる研究活動について今後の方針、具体的な実践についてお互い共有した。

**○研修・研究活動の報告**

6月～3月の間で2か月1回程度、定期的にタスク会合を開いた。

その中で研究組織、役割分担、具体的実践について検討、情報共有、考察を行った。

**<タスク会合の様子>**



①今後の研究活動の方針

②役割分担

③1年及び3年間の計画について確認。

(居住地により少人数に分けて、会合を開催。会合によってはスカイプ会議とした)

## <具体的実践の報告>

- ・パキスタン、モンゴル、南アフリカ、ベトナム、フィジー、タイ、フィリピンと候補地が挙がる中  
 研究員、弊団体と繋がり深い、パラオ共和国が対象国となった。

JICA東京、JICAパラオ支所、在パラオ日本大使館等の協力を得て、現地へ渡航。  
 教育支援のための調査、教育交流のための前段階の意見交換等を行った。

## <研究実践計画>

- 6月 研究実践のための第一回タスク会合  
     JICA東京とのコンサルテーション
- 7月 パラオ共和国教育省との連絡開始  
     各研究員単位での業務実施期間
- 8月 パラオ共和国教育支援のための第二回タスク会合
- 9月 各大学、研究機関との意見交換
- 10月 来日中のパラオ教育省担当官へのインタビュー
- 11月 パラオ共和国渡航準備（パラオ共和国訪問校への事前インタビュー等）
- 12月 パラオ教育省との最終調整（スカイプ会議）
  - 1月 パラオ共和国渡航
  - 2月 教育支援、教育交流の分析、まとめのための第3回タスク会合
  - 3月 パラオ共和国教育支援の報告会開催

パラオ共和国 現地予定表 （渡航期間 1/2～1/7）

日	時間	活動内容	場所	備考（準備物等）
1/2	25時	ホテル到着、就寝	ホテル	
1/3	8時	朝食	コロール	
	9時	準備ミーティング	ホテル	各書類
	10時	↓		↓
	12時	昼食	コロール	
	14時	パラオ教育省訪問	教育省	カメラ、ICレコーダー、各書類
	17時	現地コーディネーター懇談	コロール	カメラ、ICレコーダー、各書類
	20時	振り返りミーティング	ホテル	各書類
1/4	8時	朝食	コロール	
	9時	準備ミーティング	ホテル	各書類
	10時	在パラオ日本大使館表敬訪問	日本大使館	カメラ、各書類
	13時	現地コーディネーター懇談	コロール	カメラ、ICレコーダー、各書類
	15時	現地コーディネーター懇談		カメラ、ICレコーダー、各書類
	17時	振り返りミーティング	ホテル	各書類

日	時間	活動内容	場所	備考（準備物等）
/5	8時	朝食	コロール	
	9時	学校訪問（授業見学・調査、教員、生徒へのインタビュー等）	ミュンス小 学校	ビデオ、カメラ、ICレコーダー
	12時	昼食		
	13時	学校訪問（授業見学・調査、教員、生徒へのインタビュー等）	パラオ高校	ビデオ、カメラ、ICレコーダー
	16時	パラオ教育省との懇談	パラオ教育省	ビデオ、カメラ、ICレコーダー
	19時	振り返り、訪問へのミーティング	ホテル	
/6	8時	朝食	コロール	
	9時	学校訪問（授業見学・調査、教員、生徒へのインタビュー等）	GBH 小学校	ビデオ、カメラ、ICレコーダー
	12時	昼食		
	14時	パラオ教育省との懇談	パラオ教育省	ビデオ、カメラ、ボイスレコーダー
	16時	JICA パラオ支所訪問	JICA 支所	カメラ、各書類
	20時	振り返り、訪問へのミーティング 帰国準備	ホテル	各書類
/7	25時	ホテル出発		

### <パラオ共和国での活動>



#### ○パラオ教育省管理官フィリップ氏との現地での活動確認

- ・事前アンケート状況、訪問校のスケジュール確認
- ・パラオ共和国への各国支援状況
- ・弊団体の活動範囲の確認



#### ○パラオ教育省 特別支援教育専門官との意見交換

- ・パラオ共和国における特別な配慮を要する児童、生徒の様子について。
- ・アメリカのUSガイドラインの確認及び弊団体の活動範囲の確認



#### ○GBH小学校、ミュンス小学校等訪問

- ・各校訪問、授業見学
- ・児童生徒の行動観察
- ・児童生徒、教員との交流



### ○パラオ共和国現場教員へのインタビュー

- ・児童生徒の在籍、カリキュラム、学校内、家庭での様子
- ・事前アンケートに基づく質問
- ・児童、生徒の教員から見た課題、課題解決のための方策

### ○全体の考察

国際支援国・教育交流国決定から国内、海外と幾多の試練はあったが、概ね計画通り、いなそれ以上に進んだ。

今回の活動を通じ改めて感じたことの一つは、国際支援の大切さと難しさである。国際支援、協力といっても私たちが担える分野は、教育である。教育は、人を作り育てる分野であり、国家にとって次の時代を担う人材育成、国の最重要課題の一つであることは、どの国においても疑う余地はない。

それ故、教育の成否が直接その国を左右するといっても過言ではない。それは、現地へ行って、見学・調査する中でひしひしと伝わってきた。その分野において教育支援できるということは、その国の根幹をなす重要なプロジェクトに携われることであって、何より光栄なことである。また、そこで得た知見や経験は、日本に帰って、日本の教育に寄与すると共に、携わった我々はもとより、関係者の皆様がそれぞれの分野で一段と活躍される源となることは間違いない。

一方、対象国にとっても様々な事情がある。弊団体は、日本の公的機関を通じて、今回活動を行ったが、パラオ共和国は、日本の親日国ではあるが、アメリカをはじめ、中国など他国との関係も深い。弊団体が活動するのに諸外国との契約や関係を見逃すことも現実であり、パラオ共和国にとって調整が必要なことも出てくる。ましてや、一国の将来を担う教育分野における活動となると尚更に慎重とならざる負えない。つい先月の話し合いでは、了解を得られていたことも、月が替われば内容が変更されたり、了解を得られなくなったりしまったということも少なからずあった。国際支援は、対象国に現実にはどのような課題があり、現場にどの支援が必要であるというだけでなく、国と国との関係、教育行政側と現場との関係、様々な機関や窓口が絡み合っ上で、今何が求められ、なすべきこと、なせることは何なのかを紡ぎ出さなければならない。

教育交流については、教員同士の交流、教員と児童・生徒との交流、児童・生徒同士の交流と様々な考えられる。今回の訪問を通じて、教員同士の交流は、概ねスムーズに行われた。限られた時間であったが事前に共に課題について意見交換をしたり、事前アンケートをもとに現地での話し合いをしたり、とても有意義なものとなった。今後も継続的に意見交換をしながら、教育支援の実績を積み重ねてまいりたい。次に児童・生徒同士の交流であるが、ミューンス小学校との交流の話が持ち上がっている。まずは、絵画交流を通じてのお国紹介や学校紹介からはじめ、様々な交流を深めたいとの意向である。教育交流については、現在日本の公立私立を含め、たくさんの学校が国内はもとより、海外の学校と交流している。インターネットを通じての交流や絵画の交流、お互い訪問し合う直接交流も多くなってきた。それは、児童・生徒自身のかけがえのない思い出となり、友好を結ぶ架け橋となっている。回数も単発で終わる交流も多いが姉妹校提携を結ぶまでに発展している場合もある。

教育交流については、弊団体も経験があり、現在も継続中であるが、一番の課題はなんといっても継続性にある。様々な事情で3年5年と継続できないことが多々ある。10年間継続している学校間は非常に少ない。もう一つは、継続の中で起きる形骸化である。形骸化は、交流の根本である心の交流を大きく損なう原因となる。しかしながら、日本の学校の教育が担う内容は多岐にわたり、年々忙しくなる一方である。あるデータによると教員の病気休職・退職は、10年前の倍にも及び働き方の改善が求められる昨今である。

そんな中、交流を続けるだけでも一苦勞、大変であり、内容を見直すことは非常に難しく至難の業といってもよい。この継続性と継続性に潜む形骸化をどのようにすればよいのか。大きな課題の一つである。

### ○今後の研究活動について

3月に行われた国際教育支援のための報告会の内容を英文化し、パラオ共和国へ送る予定である。それを土台に、パラオ教育省と今後も支援の在り方について検討を重ねたい。

教育交流については、教員間の交流は継続して行い、児童・生徒同士の交流もミューンス小学校との交流を具体的に進めたい。具体的な実践を通じて、課題克服のためのその在り方について実践研究を積み重ねたいと考えている。